

## 中国の安全検査について

国際文化学部国際文化学科 3年

17011042 千葉明里

## 1. はじめに

留学に来てから約半年が過ぎ、留学生活も後半が始まった。この半年の留学の中で安全検査を頻繁に受けた。旅行や帰省の際に利用する高速鉄道や、旅行先で地下鉄を利用するときや観光地に行くときにも大方の場合入り口で手荷物検査や安全検査を受ける。日本では空港でしか安全検査を受けることがなく、ほかの国でも安全検査を行う国はあまり多くないように思う。今回は中国でなぜこのように厳しく安全検査を行うのか、どのような安全検査が行われているかについて調べてみた。

## 2. なぜ厳しく安全検査を行うのか

中国語で安全検査は安検と呼ばれ、X線による手荷物検査や金属探知機による身体検査を主に行っており、中国の地下鉄で安全検査が始まったのは2008年のオリンピック時で、世界の地下鉄では北京で初めて安全検査が導入されるようになった<sup>(1)</sup>。

中国で安全検査が多い理由は主に二つある。一つ目は治安目的である。中国は人口が多く、地下鉄などで事件が起きた時には犯人を特定するために時間と手間が非常にかかる。そのため事前に危険物などの持ち込みを防ぐことで事件を未然に防いでいる。もう一つの理由は雇用の拡大であると考えられている<sup>(2)</sup>。広州地鉄集団が出した『広州地鉄線網安検服務項目(2018-2021年)紹標公告』では、広州地鉄には全路線で3583人の安全検査員がいると記されている<sup>(3)</sup>。

## 3. 空港での安全検査

日本の空港でも安全検査は行われるが中国の空港で行われる安全検査はほかの国に比べて厳しい印象を受ける。

---

(1) 「為什麼總是在安檢」 ([http://www.sohu.com/a/222635841\\_383724](http://www.sohu.com/a/222635841_383724))

(2) 「為什麼中国的地鐵要安檢，韓日却不用呢？韓國網友的評論很禁心！」  
(<http://www.yidianzixun.com/article/0MxQJZp4>)

(3) 「広州地鉄線網案件服務項目(2018-2021年)(標段2)紹標公告」  
(<http://www.safechk.com/showinfo-26-4588-0.html>)

私が帰省などでよく利用する上海浦東空港にはターミナルが二つあり、その二つを行き来する際は必ず手荷物検査を受ける必要があり、荷物はすべて X 線検査を通し金属探知機で身体検査を受けなくてはならない。これは浦東空港だけでなく北京首都空港、上海虹橋空港、青島空港、済南空港など 18 か所の空港に共通しており、二重の安全検査が行われている<sup>(4)</sup>。

さらに、搭乗前に受ける荷物検査では、液体物などをかばんから出して検査を受けるのは日本と同じだが、発火の恐れのあるリチウム電池を使用したモバイルバッテリーなども必ずかばんから出さなくてはならず、出し忘れたまま X 線検査を受けた場合はもう一度検査を受けなおさなくてはならない。さらにモバイルバッテリーの持ち込みには個数制限があり、ワット数が書かれていないものは規定内の容量であっても没収されることがある<sup>(5)</sup>。



写真 1：ワット数の書かれた充電器と書かれていない充電器  
左の充電器は中国で購入し 5000mAh で 18.5Wh と書かれている

日本で購入した残り 2 つの充電器は中央のものに 3000mAh で 15Wh と書かれているが右のものにはワット数が書かれていない

#### 4. 列車での安全検査

高速鉄道や地下鉄に乗る場合も空港ほど厳しいものではないが同様の安全検査を受けなくてはならない。まず、高速鉄道の駅に入るためにはチケットに書かれている QR コードを読み取り、中国人は身分証の IC チップを読み込んで入場する。外国人の場合は自動ゲートを使うことができず、入口のところで駅員にパスポートを提示しチェックを受けてから入場する。そのため、日本と違い駅に入るまでに行列ができています。中に入ってからには空港と同じように、手荷物を X 線検査を通し、同じく金属探知機で身体検査を受ける。高速鉄道に持って入れないものは、拳銃などの武器、発火する恐れのあるもの、刀や包丁などの刃物など空港で禁止されているものと非常に似ている<sup>(6)</sup>。開封済みのペットボトルを持ってい

<sup>(4)</sup> 「兩次安檢 旅客最少提前 3 小時到機場」(<https://www.traveldaily.cn/article/23201>)

<sup>(5)</sup> 「モバイルバッテリーは飛行機内に持ち込みできる！ただし個数と容量に注意！」

(<https://www.trip-attendant.com/bring/mobail-battery-airplane/>)

<sup>(6)</sup> 「乘坐高鉄哪些東西不能帶？」

(<https://jingyan.baidu.com/article/ca2d939d6935f3eb6d31ce4e.html>)

ると注意されることがあり、国慶節である 10 月初めごろ到北京へ行く場合はより厳しく検査されることがある。高速鉄道は日本の新幹線と似たようなものであるが、日本の新幹線に乗る際にこのような検査を受けることがないため、初めて高速鉄道に乗る際はとても驚き、列車に乗り遅れそうになる時もあった。

地下鉄では身体検査を受けることは少ないが、手荷物を X 線検査に通さなくてはならない。地下鉄内に持ち込むことが禁止されているものも、高速鉄道の規定とほぼ同じである<sup>(7)</sup>。しかし、空港や高速鉄道の駅に比べ地下鉄での安全検査はあまり厳しく行われているわけではない。上海で地下鉄を利用した際は、全員の手荷物を X 線検査に通すわけではなく、ファスナーなどのついていないすぐにカバンの口を開けて中を見せられるかばんやとても小さいかばんは検査員が目視で確認するのみで、リュックやキャリーケースなどの比較的に大きく中身がすぐに確認できないものが X 線で確認される。そのため地下鉄での安全検査はあまり意味がないように感じた。

## 5. おわりに

中国では人が多く集まる場所では必ず安全検査が行われている。治安や防犯のために行われている安全検査であるが、実際には北京や上海などの大都市以外では検査員はしゃべりながら仕事をしたり、あまりまじめに検査をしているという印象は受けない。実際に上海の地下鉄を利用している人の 80%が地下鉄での安全検査は効果がないと感じており、時間のロスであるという考えも多いが、実際に危険物の押収率も上がっており上海地鉄の管理部門は一定の効果があるとしている<sup>(8)</sup>。

日本でも 2018 年に東海道新幹線で殺傷事件が起きており、来年のオリンピックの開催を控え国内外での人々の行き来が増加に伴いテロ対策なども必要となってくるだろう。中国のような安全検査は通勤時間帯などでは混雑を招くだろうが、安全対策の面では日本で取り入れることも考えるべきだろう。

## 参考文献・URL

(1)「為什麼總是在安檢」

URL：[http://www.sohu.com/a/222635841\\_383724](http://www.sohu.com/a/222635841_383724)

最終閲覧日：2019 年 10 月 8 日

---

(7)「什麼東西不能帶進地鐵」(<http://hz.bendibao.com/traffic/201519/50354.shtml>)

(8)「上海 80% 乘客認為地鐵安檢無效果 管理部門回應」

URL：<http://www.chinanews.com/sh/2011/07-29/3218631.shtml>

最終閲覧日：2019 年 10 月 9 日

(2) 「為什麼中国的地鐵要安檢，韓日却不用呢？韓國網友的評論很紮心！」

URL：<http://www.yidianzixun.com/article/0MxQJZp4>

最終閱覽日：2019年10月8日

(3) 「廣州地鐵線網案件服務項目(2018-2021年)(標段2)招標公告」

URL：<http://www.safechk.com/showinfo-26-4588-0.html>

最終閱覽日：2019年10月8日

(4) 「兩次安檢 旅客最少提前3小時到機場」

URL：<https://www.traveldaily.cn/article/23201>

最終閱覽日：2019年10月8日

(5) 「モバイルバッテリーは飛行機内に持ち込みできる！ただし個数と容量に注意！」

URL：<https://www.trip-attendant.com/bring/mobail-battery-airplane/>

最終閱覽日：2019年10月9日

(6) 「乘坐高鉄哪些東西不能帶？」

URL：<https://jingyan.baidu.com/article/ca2d939d6935f3eb6d31ce4e.html>

最終閱覽日：2019年10月9日

(7) 「什麼東西不能帶進地鐵」

URL：<http://hz.bendibao.com/traffic/201519/50354.shtm>

最終閱覽日：2019年10月9日

(8) 「上海80%乘客認為地鐵安檢無效果 管理部門回應」

URL：<http://www.chinanews.com/sh/2011/07-29/3218631.shtml>

最終閱覽日：2019年10月9日